



会長あいさつ

国防を考える会 会長(予定)



忠義です。最初にこの会の設立のきっかけについて簡単にご説明いたします。昨年8月末、私が会長を務めていた団体において副会長との意見の対立から会長を辞し、皆様に多大なご心配とご迷惑をおかけいたしました。この場を借りて衷心よりお詫び申し上げます。その後、新しい会を作つて欲しいとのお声掛けを沢山いただきましたが、私の自衛隊時代の経験から新たに自衛隊支援団体を作るのは自衛隊に迷惑がかかるとの思いから、絶対に新団体は作らないとお断りしていました。10月に役員一人が除名処分を受け、その一ヶ月後に私を含め役員5人に対し、突然除名処分通知が届きました。通知には除名理由の説明もなく、弁明の機会も与えられませんでした。この事態を受け、この役員たちや多くの会員から新しい会を作つて、この役員たちや多くの会員から新しい会を作つ

表を務めております高橋忠義です。

衛隊支援団体を創設することを決意いたしました。新しい会を創立するは簡単なことではありません。しかししながら、幸いなことに私には支えてくれる仲間が沢山いることと事務所があり、その仲間とともに年末から準備を積み重ねて参りました。ようやく、リーフレットも出来上がり、皆さんに紹介できる段階まで来ましたので、会報「雉とさくら」を発行することとなりました。

さて、ロシアのウクライナ侵略や中国の南シナ海、東シナ海における傍若無人の言動、加えて台湾問題、北朝鮮のミサイル発射など、我が国を巡る安全保障環境は厳しさを増すばかりで、日本国民もいつまでも平和を享受できる状況ではなくなってきていました。一方、自衛隊は第一線で我が国の平和と独立を守るため、1年365日休

て欲しいとの熱い要望が
ますます寄せられ、眞の自
衛隊支援団体を創設する
ことを決意いたしました。
新しい会を創立するは
簡単なことではありませ
ん。しかしながら、幸いな
ことに私には支えてくれ
る仲間が沢山いることと
事務所があり、その仲間と
ともに昨年末から準備を
積み重ねて参りました。よ
うやく、リーフレットも出
来上がり、皆さんにご紹
介できる段階まで來ました
ので、会報「雉とさくら」
を発行することとしたし
ました。

具体的にいくつか申し上げますと、まず第一に、これから日本の日本を支える若い人たちに自衛隊をよく知つてもらい、国防に関する心を持つてもらいたい。そして、自分たちの国は自分たちで守るという強い意志を持つてもらいたい。そこに私たちの活動の軸足を置くべきであると思います。そのような活動を続けていくことにより、自衛隊に対する支援の中で最も重要な募集支援に繋がっていくと確信しております。そして、国民一人

む間もなく、警戒監視や訓練などの任務を黙々と続けてくださっています。そして、その自衛隊に対し、今や9割以上の国民が信頼を置いているという時代になっています。そのような中にあって、自衛隊支援団体の在り方もこれまでのよ「国民の国防意識の高揚」などというざっくりとした目的での活動 자체を見直し改めていかなければならぬと考えています。「国防を考える会」を設立するに当たつて、そのことをじつくり考慮した上で、設立趣旨、会の目的、活動内容などを策定いたしました。

感謝の気持ちを体現する
ということです。要するに
隊員の士気高揚に繋がる
活動です。國民から、「あ
りがとう」と言われるこ
とが、隊員にとって何よりの
励みになることは言うま
でもありません。災害派遣
や任務活動に就いている
隊員に対し、機会を捉えて
感謝の気持ちを伝えてい
くことはもちろんのこと、
会員の皆さんには、高速道
路のサービスエリア等で
休憩している隊員を見つ
けたら、「ご苦労様」「あ
りがとう」と声をかけると
いう、そういう地道な活動
が大事であると考えてい
ます。

第三は、国会議員の皆さんとともに自衛隊を支援していくことです。国防に関する法律を作るのも防衛予算を策定するのも国会であり、国会議員と距離を置いていては真正的な自衛隊支援活動はできないと思います。「国防は最大の福祉である」「国防に与野党関係なし」とい

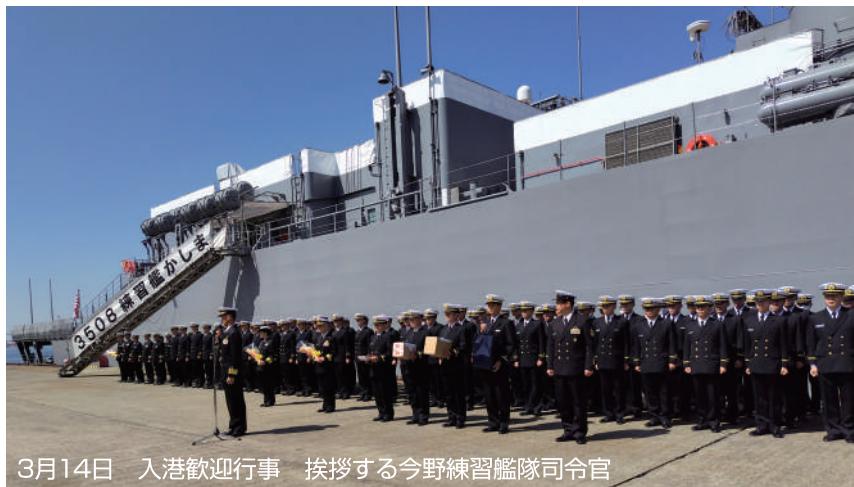
私の父の残した言葉を胸に、物言えぬ自衛隊員に代わって、与野党を問わず国会議員と直接議論を重ねることにより国防の体制づくりの一助になればと思ひます。

第五は、正しい歴史認識を持ちましょうということです。平和を望むものは歴史を学ぶことにより真理に近づくと言われます。私たちは、歴史を知つているようでは知らない。歴史を学ぶことで、どの

国の軍隊（自衛隊）も他国を侵略するためには存在するのではなく国家を守る存在であることに気づかれます。自衛隊を批判する人の多くは正しい歴史を知らない。逆説的に言えば、正しい歴史を知っている者こそ、眞に自衛隊を支援できると考えています。

最後に、自衛隊には多くの支援団体があり、それぞの団体が地道な活動を続けていらっしゃいます。私たちは、新規参入の団体ではありますが、他の会の皆さんとともに手を携えて自衛隊支援をしていきたいと考えています。一つの会では、できないようなことでも、多くの会が集まれば、より充実した支援活動ができると思います。弊会には事務所があります、事務員もあり、煩雑な事務処理は弊会で承りますので、ぜひ、協力し合って、より充実した支援活動に繋げていければと思います。

祝 日本国練習艦隊 大阪港入港!!



海上自衛隊幹部候補生学校を卒業し、三等海尉に任官した実習幹部を乗せた練習艦隊が、令和5年3月14日、大阪港に入港しました。

令和元年度からの3年間は新型コロナウイルス感染症拡大の影響によってほとんど上陸することも適わず、毎年恒例だった「歓迎のタベ」も自粛されてきておりましたが、今年度は無事に開催することができるということで、私たちも参加してまいりました。

始めに司会による開会の挨拶があり、参加者の拍手で迎えられた練習艦隊各指揮官及び実習幹部が入場しました。今年度の実習幹部としてステージに整列した若者達は一様に固い表情で、まだまだ緊張を隠し切れない、といった様子でした。「歓迎の辞」「司令官による謝辞」「実習幹部代表による謝辞」と続いたあと、実習幹部がそれぞれの席に着席し、ビュッフェ式の宴が開催されました。

緊張して遠慮がちな実習幹部に対し、同テーブルの参加者が「どんどん食べろ」「もっと食べて」「飲んで」と促す様子があちこちの席で見られました。食事をしながら、防大の思い出や、『赤鬼青鬼』（幹事付）のこと、これからることを参加者と話すうちに、実習幹部の若者も入場時の緊張がすっかりほぐれたようで、皆笑顔になっておりました。

そして参加者の拍手に見送られて隊列を組んで退場するときは、入場時の少々堅かった雰囲気はすっかり無くなっているように感じました。この「場慣れの早さ」も防大や幹候での訓練の賜物かと感じます。そして、翌日、今度は練習艦隊司令官



主催の艦上レセプションが開催されました。

今年は、新型コロナウイルス感染症対策の意味もあり、「歓迎のタベ」参加者全員に登礼というわけには行かず、参加者の中からおよそ100名程度に限定する形で招待していただきました。

大阪港に着くと、入り口付近から練習艦の繫留場所まで、たくさんの自衛官の皆様から敬礼で迎えていただきました。おじぎで返しながら艦の前までくると、一人の隊員さんがアテンドについていただき、荷物を預けるクローケ、そして会場である甲板へと案内していただきました。

日没時間となり、ラッパとともに自衛艦旗（通称、旭日旗）の降下が行われ、レセプションがスタートしました。

「練習艦かしま」の艦上には、ビュッフェ形式でたくさんの食事が並べられておりました。さすが海上自衛隊の料理は美味しい、参加者皆さんしっかり食べていました。大勢の参加者が食事を楽しんでいるにも関わらず、料理が切れることはなく、小まめに補充されている様子でした。「練習艦かしま」と並んで繫留された「練習艦はたかぜ」は、橋で繋がれて甲板を行き来できるようになっており、「はたかぜ」の甲板には、屋台の形で天婦羅、おでん、そして練習艦かしまカレーが、用意されていました。さすが海上自衛隊のカレー、大変美味しかったです。

また、『かしま』初の女性艦長、大谷1佐のそばには常に「写真撮影の列」ができてありました。（私も撮っていました。）

実習幹部の皆さんには半舷上陸という事で、半数が残って参加者のアテンドに就いているようでしたが、きめ細かく丁寧な対応をしていただきました。前日の「歓迎のタベ」で私の隣に座った実習幹部が甲板で私を見つけて声をかけてくれました。

レセプション終了後、当会の会長他と共に、艦上で交流した複数名の実習幹部と一緒に外出しました。

外出中も幹部自衛官としての自覚を崩さず、キリッとしたがらも、時折若者らしさも見せてくれました。

今はまだ若くてフレッシュな印象の彼らですが、これから日本各地を巡り、世界を巡り、実習を終えて帰ってくる頃には更に逞しく幹部らしい顔つきになっていることだろうと思いま

(西山夏生 記)



3月15日 艦上レセプションにおける自衛艦旗降納

3月17日 出港を「帽振れ」で見送る吉田阪神基地隊司令

自衛隊 部隊紹介

中方YouTubeチャンネル

陸上自衛隊中部方面隊は、令和3年の夏からYouTubeに現役自衛官のユーチューバーを投入しています。彼らは日々の活動を公開し、多彩な動画が人気の秘訣となっています。演習場で巨大テントを張ったり、戦闘車に乗って激走したりと、遊び心あふれる投稿が多く、世界遺産での命がけの掃除も行っています。主に『ひょっこ』『おかめ』、そして草のようなかぶり物をした『ギリー』の3人組が、装備品の使い方や駐屯地を手際よく紹介する形で進んでいます。

現役自衛官で初のユーチューバーとなった3人は、職務に支障が出ないよう、ひょっこことおかめのお面を身につけ、素顔は非公開としています。陸自らしいギリーのかぶり物も、装備品ではなくネットで見つけたものです。彼らは、動画編集から企画制作まで手探りで学び、初めて制作した動画は『障害走走ってみた』でした。

動画は、現役自衛官が何をしているのかという疑問から、もっと見たいという声まで、多様な反応を呼びました。その後、彼らが紹介した自衛隊の車両や訓練コース、世界遺産での作業など、様々な動画が作成され、多くの人々に自衛隊に関心を持つもらうための「全方位作戦」が展開されています。森の中に隠れた3人を画面の中から15秒以内に見つけ出す『かくれんぼ』、12時間かけて泥だらけのブーツをピカピカに磨き上げる動画など、視聴者を飽きさせないよう知恵を絞っています。

全国にある陸自の5つの方面隊には、それぞれ複数の公式チャンネルがありますが、中方YouTubeの登録者数は7万人と群を抜いています。目標は、10万人。目的は話題づくりだけではなく、少子高齢化に伴い、自衛官の成り手不足が課題となる中、10代20代の若者に関心を持ってもらうという重要な任務も背負っています。上下関係に厳しいとか、草をつけて訓練ばかりとか、堅いイメージで語られがちな陸上自衛隊ですが、自然体で自衛隊の仕事を伝えています。ぜひチャンネルをご観覧ください！

見せます！あなたの知らない自衛隊

をモットーに、中部方面隊の活動・装備品・駐屯地などを、ひょっこ曹長、おかめ3曹、ギリー1曹の3人が、ゆる〜く紹介しているチャンネルです！コメント・高評価等、どしどしあ待ちしています！



サバイバルを実践！？
「ライフハック
やってみた」



色々な駐屯地を
隅々まで紹介！
「ダーツの旅」

自衛官の生活って
どんな感じ?
「男性寮に潜入！」



ひょっこ曹長 おかめ3曹 ギリー1曹

観閲式や訓練展示など、ライブ配信中!
チャンネル登録もお願いします!



Continue to Challenge
陸上自衛隊 中部方面隊
ユーチューブチャンネル



自衛隊学生 からの手紙

陸上自衛隊高等工科学校
第67期生 大坪 旭
[大坪理事(予定) 長男]

私は15歳という若さで陸上自衛隊高等工科学校に入り「公務員」という身分になりました。もちろん中学を卒業してすぐの私にはつらい事がたくさんありました。そのつらい生活の中でどのように成長したかを伝えたいと思います。

現在私は3教（3学年）となり、生活にも慣れてきて精神的にも少し余裕が出てきました。

ですが、1教の時は全く余裕などなく生活に慣れるのに必死でした。そんな私がここまでこれたのは同期と先輩、そし

て職員の存在がとても大きかったです。

まず、生活には同期との協力と先輩の助けが必要です。着校して当初は先輩にゼロから物事を教えていただきました。そのため先輩とは、とても話すようになりました。そして同期は、つらいことやしんどいことを一緒に乗り越える必要不可欠な存在です。15歳で親元を離れて全国から集まる見ず知らずの人達と集団生活をするのは、とても精神的にしんどい事です。それを支えてくれるのが職員の方々です。例えるなら学校の先生みたいな人が職員です。特に1教の頃はとても情のある接し方をしていただき、とても助かりました。

高等工科学校では自分自身の体力、精神力ともに成長しました。1教から2教に上がる際はある一定の学力と体力が必要です。両方自分自身が努力しないと達成できません。その為自分できちんと頑張る力が身に付きました。

最後にもう一つ、これは私がこれから高等工科学校を志す人達に向けて伝えたい事です。本校は、いなくなれば人生で大切な高校生活の青春を国に捧げる場所です。お金がもらえる、親に樂をさせたい、志望する動機は様々だと思います。ですが一度想像してみてください。高等工科学校に入校した自分の未来を、自衛官になった自分の将来を。都合の良いところだけを見ずに、つらい書きつい事。それを乗り越える覚悟があり成長したい人は是非、高等工科学校に入校してください。



行事のご案内

第96回 黒田裕樹の歴史講座 日本古代史その4 律令国家の完成

詳しくは、ホームページにてご確認ください。
 主 催：国防を考える会・正しい歴史を伝える会
 日 時：5月28日(日) 14時～17時
 会 場：貸し会議室プランセカンス6階
 　　大阪市淀川区西中島4-2-26
 参加費：2,000円 (国防会会員1,000円、国防会青少年会員無料)
 申込方法：
 　・QRコードからウェブサイトに
 　・国防を考える会 06-4256-4868
 　info01@kokuboukai.com



国防を考える会・設立総会・記念式典・記念講話・懇親会

日 時：令和5年6月11日 (日)	場 所：KKRホテル大阪
時 程：	参加費：10,000円 青少年会員3,000円
15:00 総 会	総会・記念式典のみ 無料
16:00 記念式典	記念講演(基調講演、パネルディスカッション)
	ゲスト講師：河野克俊氏(元統合幕僚長)
18:00 懇親会	記念講演のみ 3,000円、青少年会員 無料
20:00 終 宴	詳細・お申込みはホームページまたはチラシをご覧ください。

国防を考える会(国防会)の案内

目的と事業内容

本会が今後しっかりと目的をもって活動していくために、設立に際し、その目的を会則に明記することとしました。

『本会は、国防への关心・知識を高め、その重要性を認識するとともに、我が国の平和と独立を守る自衛隊の活動を支援することを目的とする。』この目的を達成するため、本会は次に掲げる10項目の事業をおこなってまいります。

1. 自衛隊の活動に関する協力・支援
2. 自衛官の募集・就職支援及び広報に関する協力・支援
3. 部隊研修及び自衛隊の実施する諸行事への参加
4. 英霊に対する慰靈顕彰
5. 国防・歴史に関する講演会・セミナー等の開催
6. 国防強化に尽力する議員の党派を超えた応援・協力
7. 会員相互の親睦のための諸活動
8. 関連団体との連携・相互協力
9. 会報の発行及びSNS等を用いた情報発信
10. その他、本会の目的を達成するために必要な事業

ロゴマークの由来



ロゴは『陸海空(緑・青・水色)が三つ巴で協力し、その中心に統合幕僚本部(紫)がある自衛隊を表し、国鳥(雉)と国花(桜)、そして国旗(日の丸)を配しました。

会報「雉とさくら」名称の由来

自衛隊を支援することで、国防、ひいては日本の未来を考える、そういった意味を込め、本会のロゴにも用いている国鳥と国花をそのまま名称にしました。

後編 記集

混沌を極める現在の国際情勢の中で、時代感覚として遅れ馳せながらでも、国防への意識や自衛隊への評価が刷新されていくことを嬉しく思います。

眞の自衛隊支援団体が必要とされる今だからこそ、『国防を考える会』の発足と、会報『雉とさくら』の創刊には、我々と皆様方『憂國の士』達の矜持が厚くつまっております。

共に日本の国防を考え続けて参りましょう！

(山根寿豊 記)

入会のご案内

1. 会員種別について

入会希望の方は、以下の4種類の会員種別を選んで入会申し込みができます。

種 別	会 費
正 会 員	本会の目的に賛同して入会した個人 3,000円/1口
贊助会員	特に贊助会費をもって本会を支援する個人 10,000円/1口
法人会員	本会の目的に賛同して入会した法人または団体 20,000円/1口
青少年会員	本会の目的に賛同して入会した16歳以上33歳未満の個人 1,000円/1口

2. 初年度の会費について

本会では、入会金を設けていないため、初年度の会費は下記の通りとします。

入会希望月	会 費
4月～9月	全額
10月～12月	半額
1月～3月	0円

3. 入会手続きについて

入会手続きは、所定の入会申込方法により入会申し込みをするとともに、選択された会員種別、入会希望時期に応じて、初年度の会費をご入金ください。(ただし、1月～3月にご入会を希望される方は、初年度会費が無料のため、翌年度の会費の全額の入金をお願いいたします。その入金を以て、入会の意思表示と見させていただきます。)

事務局にて、申し込み及び入金の確認後、会則の規定に基づいて入会審査をいたします。会員名簿への登録完了のご連絡まで今しばらくお待ちくださいませ。

(※万が一、入会していただくことができないと判断された場合は、お振込みいただいた会費の返金とともにその旨ご連絡させていただきます。予めご了承ください。)

また本会では、未成年者および成年被後見人の入会は法定代理人の承諾を必要としております。

4. 会員活動について

ご入会いただいた会員には、本会が主催または共催する各種講座・講演その他の事業に優先的にご参加いただけます。(定員の都合により抽選になる場合もございますので、あらかじめご了承ください。)

5. 最後に…

私たちとともに自衛隊の活動を支援し日本の国防について真剣に考えていただける仲間を大募集中です。皆様のご入会を心よりお待ちいたしております。